

桜蔭俳話会 平成二十四年 夏

第一〇六回通信俳句会 選句結果

(選句数 八句、特選には○をつける)

1点	横浜の花火に行けず次回こそ	直子	2点	さようなら代々木に群れてわが盛夏	田鶴子
4点	生と死は隣り合はせや晩夏光	友子		眼交に活けしひまわり笑ひけり	幸枝
7点	いぢめなき日のあらばこそ夏休	守		身代りの庚申生れ猿暑し	貞勝
9点①	大鯰明治の顔をしてをりぬ	貞勝	3点	あをぎ見る木漏陽の木々夏の夕	真三
1点	朝焼の野球子眠さうな瞳	明美	3点	炎熱や自意識過剰の黄の車	ヤエ子
3点	風涼し風の広場を通りゆく	真三	4点	夕立の過ぎしまるごと静まりて	ツル子
2点	暑さ増し風鈴の音の心地よき	邦子	3点	地ならしや車いづれも三尺寝	秀一
2点	夏蝶や影を失ふ日の乱舞	則敏	4点	八月のマンゴ―の皮のきらきらす	明美
2点	冷房の利きし電車に飛び乗りぬ	ヤエ子		燃ゆる海怒涛の波を飲み込みて	則敏
7点	洗はれて万緑の山近々と	のり子	3点	日本力世界に示せ真夏の夜	直子
4点	万緑や真白き壁の納骨堂	幸子	8点①	しまい湯の溜息ひとつ遠火花	ツル子
4点	沼の面にゆるる五色や新樹光	安紀子		背泳や真上の太陽眼射す	ヤエ子
3点	降る花火浴びて歓喜の天ひとつ	田鶴子	1点	岩鏡莫蔭を抱えて湯治客	溪水
3点②	死後はもう使わぬ汗や草むしり	みさ	2点	灼くる道子連れのデモの列長し	友子
4点	夏休み孫より杉の香板葉書	幸	8点	車道脇空蟬ひとつ夏終る	忠夫
	涼風をもたらす夕鳩声続き	忠夫	3点	あでやかに踊るタンゴや夏の蝶	安紀子
1点	オリンピック暑さ忘るる好試合	溪水	20点⑧	しばらくは手にあふれさす岩清水	幸
5点	自転車に捕虫網立てプールかな	秀一		炎昼の緑の光る河口かな	真三
2点	笛の音に金魚追ふ子の網やぶれ	ツル子	4点①	梵鐘の余韻幽かや沙羅の花	幸子
1点	羅や芸妓と米寿祝しとふ	幸枝	12点③	こしひかり茶漬が爺の暑氣払ひ	貞勝
12点	したたるや岩一枚の窪むまで	みさ	14点④	かき氷ふんはり空気重ねけり	守
1点	初燕ビル建て替えに古巢失せ	忠夫	2点	鄙の駅守る山桐の色の濃き	のり子
	暑い日に俳句誘うも無理という	直子	1点	風鈴は動かさず汗の出るばかり	邦子
1点①	石の眼の彼方見つめて夏木立	のり子	2点	若者を呑み込む阿蘇の出水かな	明美
5点①	団扇絵の風呼びこめり蔵座敷	幸	1点	老の血をそこまで吸ふか蚊と同じ	幸枝
4点①	洗ひ髪娘は妻に変貌す	友子	4点①	炎帝や凡鐘の中からつぼう	みさ
4点	日盛に影愛おしむ大樺	則敏	8点①	水平線雲の離れし晩夏かな	秀一
7点	青田風これより先は峡深し	幸子	2点	紅き下駄清しき音や涼一瞬	田鶴子
9点	軋しみつつ止まりし電車原爆忌	守			
2点	夏休み無人の校庭ざらざらと	邦子			
5点	さくらんぼ声透きとおる少女かな	安紀子			
2点	夕焼けを満身に浴び部活動	溪水			

(七句のみ選句された方一人、特選〇無しの方四人  
おられましたこと付記いたします)

得点順

二十点

⑧しばらくは手にあふれさす岩清水

稲葉 幸

夏休み孫より杉の香板葉書

稲葉 幸

十四点

④かき氷ふんはり空気重ねけり

増田 守

日盛に影愛おしむ大櫛  
夕立の過ぎしまるごと静まりて  
八月のマンゴーの皮のきらきらす

坂本 則敏  
荒木ツル子  
古野 明美

十二点

③こしひかり茶漬が爺の暑気払ひ  
したたるや岩一枚の窪むまで

野上 貞勝  
小川名みさ

(以下省略)

九点

①大鯨明治の顔をしてをりぬ  
軋しみつつ止まりし電車原爆忌

野上 貞勝  
増田 守

八点

①しまい湯の溜息ひとつ遠花火  
①水平線雲の離れし晩夏かな  
車道脇空蟬ひとつ夏終る

荒木ツル子  
佐渡谷秀一  
安中 忠夫

七点

いぢめなき日のあらばこそ夏休  
洗はれて万緑の山近々と  
青田風これより先は峡深し

増田 守  
柏尾のり子  
辻 幸子

五点

①団扇絵の風呼びこめり蔵座敷  
自転車に捕虫網立てプールかな  
さくらんぼ声透きとおる少女かな

稲葉 幸  
佐渡谷秀一  
藤崎安紀子

四点

①洗ひ髪娘は妻に変貌す  
①梵鐘の余韻幽かや沙羅の花  
①炎帝や凡鐘の中からつぼう  
生と死は隣り合はせや晩夏光  
万緑や真白き壁の納骨堂  
沼の面にゆるる五色や新樹光

藤本 友子  
辻 幸子  
小川名みさ  
藤本 友子  
辻 幸子  
藤崎安紀子